

‘ギョウテ’

GETCH

VOL.92

2020.3



西東京市図書館



『きみの友だち』

重松清 著 新潮社

この世の中には数えきれないほどの本があります。その中で私が十数年生きてきて、心に残っている一冊を紹介します。重松清さんの「きみの友だち」です。私が小学生の時に読んだ本で思春期ならではの悩みに寄り添ってくれる一冊です。

交通事故にあい松葉杖生活となってしまった恵美。交通事故にあったことを友達のせいにしてしまい、今まで友達だった「みんな」が敵になり「みんな」なんて信じなくなる。そんなとき、生まれつき腎臓が悪く入退院を繰り返している由香と出会う。由香と恵美はお互い大切な存在になる。

恵美や由香の視点から描かれているお話。小学生や中学生のいじめなども描かれています。恵美や由香からだけの視点ではなく周りの当事者からの視点でも描かれており共感できるところがたくさんあります。私は今高校生ですが、小学生、中学生時代がよみがえってきます。「友だちがいなくなっても、一生忘れられない友だちが一人いたらそれでいい」など主人公である恵美が言うひとつひとつの言葉に心を動かされます。

小学生や中学生の時に一度は関わる人間関係の悩み。自分が仲間外れにされるかも、という不安感や誰かの上に立っていることで得る安心感。誰もが一度は思うのではないのでしょうか。私も高校生活の中で思ってしまうことがあり、不安になるときもあります。もし、私と同じような事を思っている方がいるのならば、ぜひこの本を読んでいただきたいと思います。年齢関係なく「友だち」に対する考え方が変わると思います。

『はじめてのギリシア神話』

松村一男 著 筑摩書房

唐突ですが、あなたは「ギリシア神話」をどの程度知っていますか？
ギリシア神話は、星座や小説、はてはゲームまで、様々な界隈でテーマやモチーフとして使われているので、知っている人の方が多いのではないのでしょうか。逆を言えば、それらだけでしか見たことがないので、あまり詳しく知らない、という人もそれなりにいるはずです。

今回紹介する本は、『はじめてのギリシア神話』そんな人たちにこそ、ぜひ読んでほしい本です。この本では、主にギリシア神話の成立や英雄たちの冒険譚、それを際立たせる怪物や神たちの紹介をしています。また、この本の作者である松村一男さんが神話の比較をする学問を専門としているため、コラムや最後の章にて、他の神話との共通点や比較について書いており、「神話」というジャンル自体への理解を深めることもできます。

ただ星座を見る、ただゲームをする、だけではもったいない。この本を読んでその物語性や登場人物についてよく知れば、よりそれらを楽しめるようになると思います。

『さすらい猫ノアの伝説』

重松清 著 講談社

5年生になった健太は苦手な算数の教科書をじっと見つめ、授業を受けていた。ツンツン。親友の亮平が背中をつついて邪魔をしてくる。低学年のときに同じクラスだった亮平は今でもずっと仲がいい。中学年のときは違うクラスになってしまったが、5年生ではまた同じクラスになることができた。とっても嬉しいはずなのに、亮平はなんだか4月から様子がおかしい。大好きだったサッカーもやめてしまってちっともやる気が感じられない。そんな亮平から手紙が回ってきた。「デッキに猫」そう書かれている。ふとデッキを見てみると、なんと本当にデッキに黒猫がいるではないか。すると、のんびりと日向ぼっこをしていた黒猫がひょいっと健太の膝に乗ってきた。首に巻かれている風呂敷の中身を確認してみると、「おめでとうございます！あなたのクラスはノアに選ばれました！」と書かれた手紙が。なんとノアは「クラスが忘れてしまったこと」を思い出させてくれるらしい。けれど、今は5年生が始まったばかり。最高の担任の先生のおかげでまともにはサイコーなこのクラスに、忘れたものなんてないだろう。一体このノアは僕らに何を教えてくれるのだろうか？

この本は私にとっての思い出の一冊でもあり、作家さんの中で一番好きで尊敬している重松清さんを知るきっかけとなった本です。しかし、思い出の本といっても読んだのは7年前。ざっくりした内容は覚えていても細かい内容は覚えていなかったので、原稿を書くためにもう一度読み直してみました。最初に読んだときは小学生でしたが高校生になってもやはり面白く、小学校を思い出しく感じました。この本は、重松さんが他に書かれている「流星ワゴン」や「十字架」のような少し重たい話ではなく、児童書なので忙しい人でもサクッと読むことができる明るめの作品と

なっています。重松さんの作品を読みたい方にはオススメの一冊です。

「クラスが忘れてしまったこと」皆さんのクラスはありませんか？ぜひこの本を読んで、少し考えてみてはいかがでしょうか？

『羊と鋼の森』

宮下奈都 著 文藝春秋

ぼくの彼女はピアノが本当に好きなこです。なにかオススメの本教えて！って言われてピアノに関連する物語を何冊か読んで出会ったのがこの1冊でした。『羊と鋼の森』の名前は前から知っていました。表紙に描かれている楽譜と羊が可愛らしい本だな、という印象でした。

この本はピアノの調律に魅せられた1人の少年が、調律を通して成長していく物語です。書名である羊と鋼の森はある世界を表しています。

最初に読み終わったとき、とてもすっきりした気持ちでした。まるで森を抜けたところに広がる原っぱのような、心地よい風がふいてました。わりと新しい物語（2015年出版）にしては珍しくずっと一人称で進むお話です。登場人物もそんなに多くありません。この本には繊細な表現で描かれる気持ち、感情、思いが詰めこまれているのです。ぼくはその描写にとても惹かれました。もっと文章力があればお伝えできるんですけど……ぜひ、読んで味わってほしいです。

難しい本ではないので読むのは好きなんだけど簡単なのしか、って人にもオススメです。その一方気持ちの描写がとても綺麗な1冊なので、ばりばりの本好きだけど読んでないという人がいたらぜひ読んでほしいです。読み終わったら感想を語り合いましょう！

西東京市図書館には20冊以上の所蔵があるので気軽に読んでみてください！

YA!YA!ひろば



いーひばり茶屋図書館



いー谷図書館



20目です!!

西東京市図書館

バラが上手くかいて自分的には大満足です!



イラストお上手ですね!

たくさんの投稿ありがとうございます!

『12の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究』

ーきみはどう思う？ スポーツと社会の今と未来を考えようー

坂上康博／編著 くにともゆかり／イラスト

かもがわ出版

今年の夏、オリンピック・パラリンピックが56年ぶりに東京で行われますね。会場問題、暑さ問題、マラソン会場の変更…最近では聖火ランナーなど話題になりました。

この本で語られているのはオリンピック・パラリンピックの歴史や仕組みだけではなく、大会の「社会をよりよくしていく」という大目標について、「100m走の世界記録、昔と今はどうちがう？」「大会を開くにはいくらかかるの？」「小学生はオリンピックに出られるの？」などのテーマから考えていきます。

日本が開催国に決まってから、大会に関係する色々な出来事を私達はリアルタイムで見してきました。また、これから大会が行われ、そして終わった後の、開催国がどうなるのか実体験できる貴重な機会です。より深く、様々な視点から大会を考えてみませんか？

編集後記

お久しぶりです！皆さん元気ですか？今回、表紙を今人気な『鬼滅の刃』の書道を描いてみました。皆さんはどのキャラが好きですか？私はしのぶさんが好きです。読んだことがない方はぜひ面白いので読んでみてください！

最近、インフルエンザとかコロナウイルスとか感染症が流行していますが、春頃にはおさまっているといいな〜。皆さんお気をつけて！

すず

今回は少し難しい新書を紹介させていたかきました。

少し難しいとは言ったものの中学生が読めると思うので、皆さんもぜひこの本からオリンピック研究に触れてみて下さい！(押しが強い)

最近はいよいよ来年の夏頃に向けて勉強が急激になってきて本を読む時間が減ってはきましたが、所々時間を取って読みたいです…

アオイ

みなさん本を選ぶときどうやって選んでいますか？ぼくは表紙の雰囲気ですね。好きな作家さんで選ぶこともあるけど、やっぱりなんとなくですねw

ぼくは今回『羊と鋼の森』を寄らせていただきました！最近の本にしては珍しい描写なので少し新鮮でした。ほんとに読んでほしいですな

はやくあなたかくな、てほしいなあ…

耕太郎